

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 図画工作 第32号

- 小学校対象 -

平成16年10月発行

### 材料などをもとにした楽しい造形活動(造形遊び)の考え方とその指導

平成14年度から、A表現(1)「材料などをもとにした楽しい造形活動」(以下「造形遊び」とする)が高学年にも位置付けられ、すべての学年において、より一層の「造形遊び」の指導の充実が求められている。

そこで、本稿では「造形遊び」の目標を確実に達成するため、造形遊びの考え方とその指導の在り方について述べる。

#### 1 「造形遊び」とは

「造形遊び」は、児童がもっている遊び性に注目し、造形的な要素を学習活動として組み立てたものであり、活動の過程を大切にしたい学習である。児童が、材料や場所といった環境に対して主体的に働き掛け、自分なりの意味や価値をつくり出していく活動のことである。

「造形遊び」の内容は、児童が体全体で材料や場所などに働き掛け、扱う材料の特徴から発想し、自ら選び、判断し、試し、表現するなどの創造的活動を通して、もてる力を十分に働かせる楽しい活動で構成されている。したがって、児童が体全体を働かすことで、一人一人の造形感覚や創造的な技能などの造形的な創造活動の基礎的な

能力を十分に高めることがねらいとなる。

#### 2 各学年における造形遊びの指導の在り方

(1) 低学年における造形遊びの指導(ゴシックは各学年の特徴を示す。)

低学年では、身近な材料の形や色などの特徴から思い付き、体全体の感覚を働かせながら、一人一人のよさを生かし、つくりだす喜びを味わうようにすることをねらいとしている。

そこで、低学年では、土、木、紙などの扱いやすい材料をもとに、様々な発想をめぐらし、体全体を働かせて、それらを並べる、つなぐ、積むなどの思い付いた楽しい造形活動をし、その過程で新たな取組を見いだしたり、発展させたりすることが活動の内容となる。

指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

- ・ 活動が進めやすいように、体全体でかかわることができる扱いやすい材料や広い場所を準備する。
- ・ 身近な材料に進んで働き掛け、そこから発想することを受け止めるようにする。

- ・ 教師も児童の遊びの中に溶け込み，児童一人一人が自分の造形活動に自信をもち，満足しながら安心して取り組めるように支援する。
- ・ 児童の側に立って一人一人の表現の楽しさをとらえるようにする。
- ・ 児童の活動を，その後の学習に生かしていけるように意味付けや価値付けを行う。

#### 指導事例

ここでは，児童の表現欲求にこたえる全身を使った楽しい活動で，活動の広がりをもった砂遊びの活動を紹介する。

#### ア 題材名「ようこそすなのくにへ」

(第1学年，全2時間)

#### イ 目標

砂で山や道をつくるなどの遊びを次々と思い付き，体全体を使って楽しく活動することができる。

#### ウ 展開

砂遊びについて話し合う。

- ・ 児童が自由に思い付いたことを大切に，砂の山からの夢が広がり，活動が発展していくようにする。

砂のもろさや吸湿性に気付きながら，自分なりに思い付いた砂の遊びを様々に試みる。

- ・ 山，トンネル，道，川，橋などをつくる。
- ・ 木切れや木の葉，貝，小石，型抜きした型などを並べる。
- ・ 友達と一緒に山を大きくしたり，トンネルをつないだりする。

- ・ 材料としての砂の面白さや特性などを，全身的な活動をする中でとらえら

れるようにする。

- ・ 活動の様子を見ながら，用具や材料を組み合わせ使用することや友達と一緒に活動することを受け止めたり，促したりして，新たな活動への思いが広がるようにする。

活動を振り返る。

- ・ お互いの発想や活動のよさを温め合う。

#### (2) 中学年における造形遊びの指導

中学年では，児童一人一人が材料や場所，ものをつくった経験をもとに，豊かな発想をしたり，みんなで話し合ったりして，手や体全体を十分に働かせ，自分のよさを生かしながら進んで表現し，つくりだす喜びを味わえるようにすることをねらいとしている。

そこで，木切れなどの材料や広い場所，狭い場所，樹木がある場所，斜面のある築山などの場所の特徴をもとに，発想をし，材料を組み合わせる，切ってつなぐ，形を変えてつくるなどの工夫をしたり，そのつくった形から発想をふくらましたりして，更に新しい形をつくる造形活動をすることが内容となる。

指導に当たっては，次のことに留意することが大切である。

- ・ 児童自身で活動場所を選択し，自分の発想を広げていけるようにする。
- ・ 安全面に十分配慮し，互いの活動がよく見え，刺激し合えるように工夫する。
- ・ 材料や場所の特徴から発想して，楽しく造形活動ができるようにする。
- ・ 活動の過程を重視することから，児童がゆとりをもって取り組めるようにする。

## 指導事例

ここでは、多様な材料や場所から発想、構成などをして、新しい形の発見や活動を展開する事例を紹介する。

ア 題材名 「発見 新種の生き物」  
(第4学年・全4時間)

### イ 目標

空き容器、木切れなど身の回りにある多様な材料の形や色、質感などから発想し、構成や加工の仕方を工夫し新しい形やできそうな活動を見付け、楽しく活動することができる。

### ウ 展開

多様な材料を組み合わせ、見たこともないような生き物を構成することについて話し合う。

- ・ 持ち寄った材料をすべて広げさせ、各材料の形や色などの面白いところを話し合わせ、意欲を喚起する。

材料の特徴や組み合わせから、不思議な形を見付ける。

- ・ 材料の特徴から  
空き容器、箱、缶、瓶、木切れなど
  - ・ 材料の操作から  
積む、並べる、切る、曲げる、接着する など
- 見付けた形をもとに活動する。  
構成、接着、活動する場所など

- ・ 材料をいろいろな角度からとらえたり、動かしたり、材料の加工や構成の仕方をいろいろ試みさせる中で、生き物へのイメージが広がるようにする。
- ・ 見付けた形をもとに、加工や構成、接着、活動する場所などを工夫しながら

↓ ら活動させる。

活動を振り返る。

- ・ 見付けた形や構成・加工の工夫など新種の生き物をもとに紹介させる。



(鹿児島大学教育学部附属小学校 福森真一教諭の  
実践をもとに作成)

### (3) 高学年における造形遊びの指導

高学年では、材料の形や色などの特徴や場所の空間的な特徴、その状況などから発想し、自らつくりだす楽しさを十分に味わわせるとともに、その過程においてよさや美しさや楽しさなど、自分なりの意味や価値に気付かせ、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることをねらいとしている。

そこで、中学年までの材料や場所の特徴からの発想に加え、環境という要素が組み込まれてくる。ここでいう環境とは、自然物や人工物で構成された造形的空間、光や風、雨や雪などの自然物の様子、さらには人が出入りする等の人為的な状態、時間によって変化する様子などのことである。これらのことをもとに発想し、よさや美しさなどを考え、想像力や創造的な技能などを総合的に働かせて、構成したり、つくるものと周囲の様子を考え合わせて表したりしながら造形活動をすることが、その内容となる。

指導に当たっては、次のことに留意する

ことが大切である。

- ・ 児童一人一人が、それまでの造形体験を生かして、発想や構想などの資質や能力を総合的に働かせるようにする。そのために、構成や表し方の工夫などについて、友達と話し合う場を設定する。
- ・ 児童がそれまでの造形体験を生かし、楽しい発想やアイデアを見付け、新たな表し方を進んで試み、それを大切にしながらつくりだす喜びを味わうように支援する。

#### 指導事例

ここでは、風の通る場所を生かした「造形遊び」と「つくりたいものをつくる」の要素を含む事例を紹介する。

ア 題材名 「風を感じて（ここにのれんをつるすと）」

（第6学年・全6時間）

#### イ 目標

変化が楽しめるようなデザインやつるし方を考え、のれんをくぐり抜けていく活動を楽しむことができる。

#### ウ 展開

事前に考えてきた風の通り道に行き、すずらんテープを用いて風を体感する。

- ・ 風を体で感じ取るとともに、視覚的にも風の通り道が分かるように、すずらんテープを飾らせその美しさから創作意欲を喚起する。

布をつるすことに適した場所の特徴を話し合いながら、つるす場所を決める。

- ・ 飾る場所を限定することを避けるために、この段階ではのれんということを伏せて、白い布を渡す。

布にどのような絵や模様を表すかをグ

ループで話し合い、分担してつくったり、飾ってみたりしながら活動する。

- ・ 決めた場所に白い布を下げて、デザインの見通しを立てる。
- ・ ワークシートにデザインを考え、グループごとに、デザインについて話し合い、布に製作する。

- ・ 布を各グループに数枚ずつ配布し、それぞれのデザインが連続して変化する面白さに気付かせるようにする。

- ・ つるす場所やつるし方を工夫させる。

決めた場所や別の場所に飾り、くぐり抜けてみて作品のよさや楽しさを鑑賞する。

- ・ くぐり抜ける活動の楽しさやデザインの変化する面白さ、周りの風景も変わって見える楽しさに気付かせる。



（鹿児島市立松原小学校 吉井雅彦教諭の実践をもとに作成）

「造形遊び」の学習指導の充実のためには、2学年まとめて示された目標と内容をもとに、児童の造形活動の様子を踏まえながら、適切な指導を行うことが大切である。この資料を参考にし、児童が主体的に活動する造形遊びを進めてほしい。

【参考文献】文部省 小学校学習指導要領解説 図画工作編 平成 11 年

板良教敬筆 『新しい教育課程と学習活動の実践 図画工作』

平成 11 年 東洋館出版社（教科教育研修課）